

# 和田建設株式会社 環境活動レポート

THE REPORT OF ENVIRONMENTAL ACTION

## 2013年

(2013.4.1～2014.3.31)



### 目次

環境方針	1
事業の概要	2
事業の規模	3
環境目標	4
環境活動計画	5
取組状況	6
環境活動の取組結果	7
取組結果の評価	7
環境への負荷の状況	8
代表者による評価と見直し	10
環境関連法規	11

WADAKENSETSU Co.,Ltd.

(発行日:平成26年6月30日)

# ENVIRONMENTAL POLICY

## 環境方針

---

### 基本理念

私たちは、地球環境保護はもっとも重要な社会貢献の一つであると考え、環境の保全を社員全員の共有する価値観とし、毎日の事業活動を通じて、社会資本整備と環境保護が共に成り立つ循環型社会の実現に取り組みます。

### 行動指針

- 1 法規制の遵守はもとより、環境問題の未然防止に努めます。
- 2 環境や自然を大切にする企業風土を醸成します。
- 3 資源とエネルギーの有限性に鑑み、使用する資源の最小化に努めます。
- 4 環境負荷低減を可能にする工法や商品開発を積極的に推進します。
- 5 地域、社会や自然との共生に積極的に努めます。
- 6 事務用品や建設資材等のグリーン購入に努めます。



エコアクション21

平成24年4月10日  
和田建設株式会社  
代表取締役 鈴木美奈子

# 事業の概要

## 名 称

和田建設株式会社  
(和田建設株式会社一級建築士事務所)

## 代表者の氏名

代表取締役 鈴木 美奈子

## 所在地

〒417-0061 静岡県富士市伝法3110番地の1  
電話 0545-52-1711  
FAX 0545-52-6939  
E-mail info@wadaken.co.jp

## 設 立

昭和 48 年 4 月 1 日

## 資本金

1,000万円

## 事業分野

河川、道路、橋梁、下水道工事など社会基盤の整備  
プラントメンテナンス、マテリアルハンドリング等の工場環境、生産環境の整備  
機械基礎、機械設置工事

建設業許可(24-001876) 許可業種 土木／建築一式工事  
塗装／舗装工事  
機械器具設置工事  
管工事／とび・土工工事

## 従業員数

8 名

## 環境管理責任者

鈴木 美奈子

## エコアクション担当者

秋山 有理 電話 0545-52-1711  
E-mail y\_akiyama@wadaken.co.jp

## 事業の規模

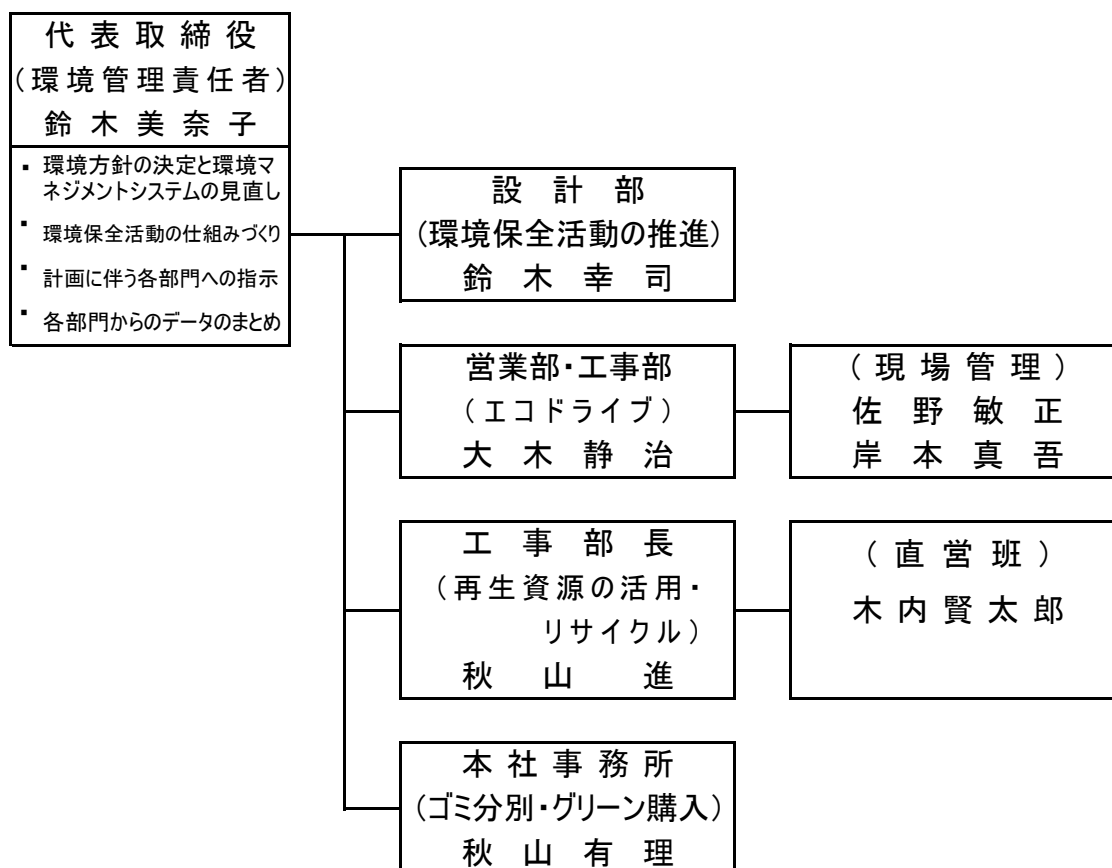
活動規模	単位	39 期	40 期	41 期
		2010.10～'11.09	2011.10～'12.09	2012.10～'13.09
工事の件数	件	211	214	210
売上高	百万円	168	175	183
従業員	人	8	8	8
事務所床面積	m2	336	336	336
倉庫床面積	m2	40	40	40
資機材床面積	m2	528	528	528

## 認証・登録の対象範囲

全組織・全活動

## 和田建設株式会社 組織図および実施体制

( )内はエコアクション21担当



# ENVIRONMENTAL TARGET

## 環境目標

### 環境目標

(電力は平成24年度東京電力の排出係数0.525による)

		単位	目標(2011年比)	目標数値 (現場においては 2011年の参考数値)	CO2排出量換算	
事業所	購入電力	kWh	-1.5%	5843.02	3067.59	
	太陽光発電量	kWh	年間想定発電量	5474	▲ 2873.85	
	太陽光発電売電量	kWh	1.5%	1788.43	▲ 938.93	
	ガソリン使用量	L	-1.5%	1755.27	4075.14	
	灯油使用量	L	実績の把握		49.84	
	LPG使用量	kg	-1.5%	138.89	416.94	
	水使用量	m3	-1.5%	245.27		
	グリーン購入	個	実績の把握	35	事業所計 (kg-co2)	
	一般廃棄物排出量	kg	-1.5%	198.97	3796.73	
	現場	ガソリン使用量	L	実績の把握	4351.8	10103.47
軽油使用量		L	実績の把握	3091.17	8112.28	
灯油使用量		L	実績の把握	33.52	77.82	
副建設物 排出物		排出量	t	実績の把握	560.25	現場計(参考)
		最終処分量	t	実績の把握	2.05	18293.57 (kg-co2)

### 中長期目標 (2011年比)

		2012年目標	2013年目標	2014年目標
事務所	二酸化炭素総排出量	-1.0%	-1.5%	-2.0%
	水使用量	-1.0%	-1.5%	-2.0%
	一般廃棄物	-1.0%	-1.5%	-2.0%

コメント 当初目標としていた、2008年度より3年間で7%の削減を、昨年度達成したことにより、今後は、削減比率を緩め、現状を維持していくことを目標とした。

グリーン購入、現場での活動については、受注工事の量や工種による変動が大きいため、実態の把握のみとした。

# 環境活動計画 ENVIRONMENTAL ACTION PLAN

項 目	担当者
① 二酸化炭素排出(燃料・電気)の低減	
全車両のエコドライブの周知	大 木 静 治
低排気車両の購入の検討	鈴 木 美 奈 子
遮光・断熱化対策	
エアコンの設定温度を夏28℃冬20℃に設定	秋 山 有 里
クールビズ・ウォームビズの推奨	
消灯の徹底	
省エネ重機の使用	大 木 静 治
② 水使用量の低減	
事務所での節水	鈴 木 美 奈 子
水漏れ点検の実施	
③ 廃棄物排出量の低減	
コピー用紙の両面使用	秋 山 有 里
業務連絡に電子メールの利用など、ペーパーレスに努める	
仮設資材を整理整頓して、購入を控える	大 木 静 治
建設副産物の分別化	
④ リサイクル推進	
ダンボール、雑誌等紙類のリサイクル	秋 山 有 里
ペットボトル、瓶、缶等飲料容器のリサイクル	
⑤ グリーン購入の推奨	
従来と値段が一緒ならばグリーン購入に乗り換える	秋 山 有 里
リユース製品の購入	
⑥ リサイクル商品の開発と販路拡大	
リサイクル可能な資材の使用を推進	秋 山 進
瓦再生砕石の販売	
⑦ 環境配慮工事提案	
環境に配慮した施工を提案	大 木 静 治
太陽光発電設備の販路拡大	鈴 木 幸 司
⑧ 地域の環境活動への参加	
地域の環境活動へ積極的に参加する	鈴 木 幸 司

# 取組状況 ACTION STATUS

項目	評価	評価内容	今後の取組
<b>① 二酸化炭素排出(燃料・電気)の低減</b>			
全車両のエコドライブの周知	○	各ドライバーの前年度平均燃費を確認	継続実施
低排気車両の購入の検討	○	低排気車両購入	次年度以降 検討
空調設定温度 夏28℃冬20℃	○	徹底されている	継続実施
クールビズ・ウォームビズの推奨	○	全社員に説明	継続実施
消灯の徹底	○	消灯を促すシールを貼る 担当者から全社員に説明	継続実施
省エネ重機の使用	○	省エネ重機をリースするよう、全社員に説明	継続実施
<b>② 水使用量の低減</b>			
事務所での節水	○	徹底されている	継続実施
水漏れ点検の実施	○	水漏れ点検のチェック表にて点検	継続実施
<b>③ 廃棄物排出量の低減</b>			
コピー用紙の両面使用	○	徹底されている	継続実施
業務連絡のペーパーレス化	○	業務連絡は電子メールまたは口頭で	継続実施
仮設資材を整理整頓して、購入を控える	○	担当者から全社員に説明	継続実施
建設副産物の分別化	○	担当者から全社員に説明	継続実施
<b>④ リサイクル推進</b>			
ダンボール、雑誌等紙類のリサイクル	○	徹底されている	継続実施
ペットボトル、瓶、缶等飲料容器のリサイクル	○	徹底されている	継続実施
<b>⑤ グリーン購入の推奨</b>			
グリーン購入・エコマーク商品の購入	○	徹底されている	継続実施
詰め替えできる商品の購入	○	徹底されている	継続実施
<b>⑥ リサイクル商品の開発と販路拡大</b>			
リサイクル可能な資材の使用を推進	○	徹底されている	継続実施
瓦再生砕石の販売	○	所属する協同組合により「ウインセラミコ」 の販売を促進	継続実施
<b>⑦ 環境配慮工事提案</b>			
環境に配慮した施工を提案	○	創意・工夫提案採用3件	継続実施
太陽光発電設備の販路拡大	×	契約には至らなかったものの、市開催の環境フェアで設備の紹介をした。	継続実施
<b>⑧ 地域の環境活動への参加</b>			
地域の環境活動へ積極的に参加する	○	紙類は就業継続支援B型事業所へ、空き缶は鮎の稚魚を放流するためのボランティアに寄付。 第7回富士市環境フェアに建築士会の一員として参加。	継続実施

# OUTCOME EVALUATION MEASURES

## 取組結果と評価

### 環境活動の取組結果

(目標達成○、前年度より減少△、どちらも未達成×)

		単位	実績	目標数値	実績%	前年度実績	達成	
事業所	購入電力	kWh	6,377.0	5,843	9.1%	6,954	△	
	太陽光発電量	kWh	5,850.0	5,474	6.9%	4,085	△	
	太陽光発電売電量	kWh	1,701.0	1,788	-4.9%	3,521	×	
	ガソリン使用量	L	1,417.0	1,755	-19.3%	1,095	○	
	灯油使用量	L	20.0	20	0.0%	20	○	
	LPG使用量	kg	130.0	139	-6.4%	151	○	
	水使用量	m <sup>3</sup>	256.0	245	4.4%	277	△	
	グリーン購入	個	27.0			50	△	
	一般廃棄物排出量	kg	244.4	199.0	22.8%	202	×	
現場	ガソリン使用量	L	4,886.0	4,352	12.3%	6,134	△	
	軽油使用量	L	5,974.0	3,091	93.3%	3,091	×	
	灯油使用量	L	54.0	34	61.1%	20	×	
	建設副産物	総排出量	t	175.9	560	-68.6%	463	○
		最終処分量	t	1.5	2.05	-25.4%	5	○
	環境配慮工事提案	件	3.0			3	△	

### ☆ エネルギー使用量

### CO2排出量換算表

(電力は東京電力の排出係数による)

		目標	実績	参考(2008年度CO2排出量)
事業所	購入電力	3,067.59	3,347.93	45,156.53
	太陽光発電量	▲ 2,873.85	▲ 3,071.25	
	太陽光発電売電量	▲ 938.93	▲ 893.03	
	ガソリン使用量	4,075.14	3,289.79	
	灯油使用量	49.84	49.84	
	LPG使用量	416.94	390.25	
	計(kg-co2)	3,796.73	3,113.54	
現場	ガソリン使用量	10,103.47	11,343.63	8,862 kg-co2 (参考)
	軽油使用量	8,112.28	15,677.81	
	灯油使用量	77.82	134.56	
	計(kg-co2)	18,293.57	27,156.00	

### 環境活動の取組結果の評価

#### ☆ 事業所内の評価

今年度、目標数値まで削減できたのは、ガソリンとLPGの使用量だった。ただ、目標数値までは届かなかったものの、購入電力、水使用量については昨年度より減少しているため、一応の評価はできるものと思われる。

二酸化炭素の排出量も、昨年度ほど大幅ではないものの、705kg-co2削減できた。

#### ☆ 現場の評価

現場での取り組みは、年ごとにその受注量や受注した工種などにより、変動が激しく、単純に比較するのが難しいため、あえて目標は置かず、実態の把握に努めることとした。

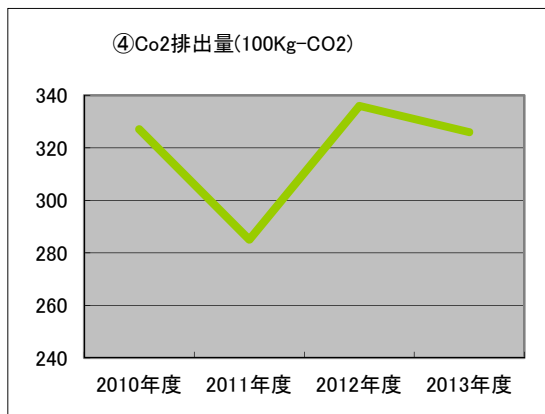
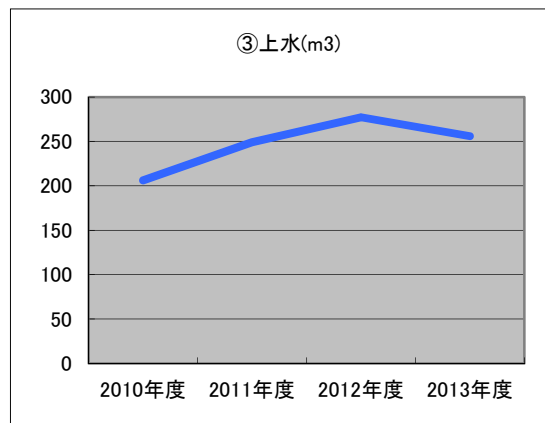
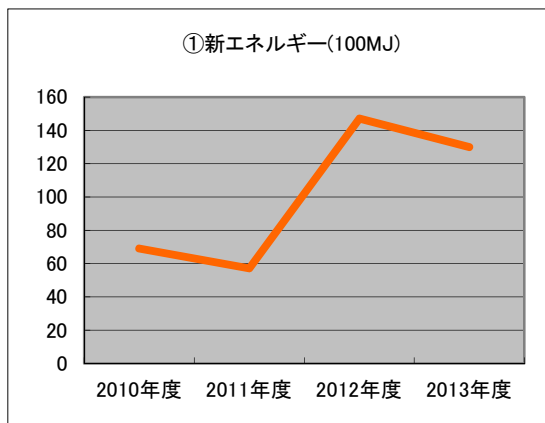
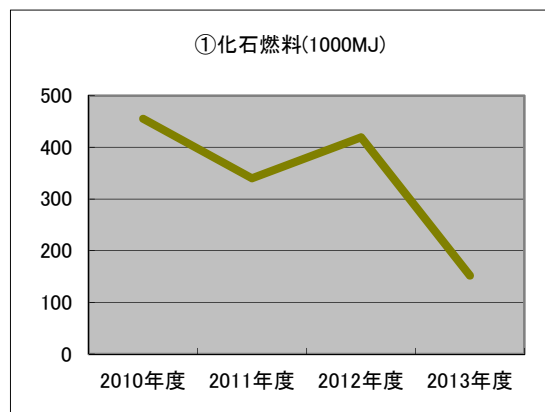
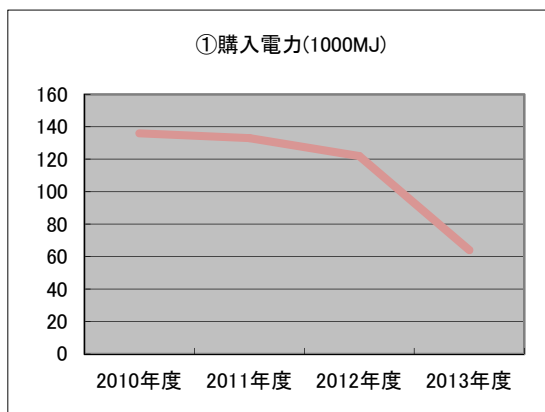
2011年度の参考数値と比較すると、工事の売上高に比例して化石燃料使用量の増加がみられる。

建設副産物については、総排出量も減少したが、その多くは再生利用し、最終処分量を減少させることが出来た。



# 環境への負荷の推移

	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
①購入電力(1000MJ)	136	133	122	64
①化石燃料(1000MJ)	455	340	419	152
①新エネルギー(100MJ)	69	57	147	130
③上水(m3)	206	249	277	256
④Co2排出量(100Kg-CO2)	327	285	336	326



参考

前年度におけるエネルギー使用量

2013年4月1日 ~ 2014年3月31日

		単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
事務所	電気	KWh	461	369	314	364	485	551	379	460	524	802	802	866	6,377
	ガソリン	L	103	7	224	128	135	124	128	93	114	173	101	87	1,417
	灯油	L	0	0	0	0	0	0	0	0	20	0	0	0	20
	ガス	L	7	3	3	2	2	2	8	24	17	25	23	14	130
	水道	m3	47	/	51	/	42	/	40	/	39	/	37	/	256
	コピー	枚	1,752	2,334	1,972	1,577	1,631	1,935	4,518	2,646	1,637	1,202	1,698	1,316	24,218
	グリーン購入	個	0	3	2	2	0	0	1	1	4	0	9	5	27
太陽光発電量		KWh	606	680	527	587	639	572	388	346	300	350	345	510	5,850
太陽光発電(売電)		KWh	318	238	159	157	105	209	121	68	50	37	55	184	1,701
現場	電気	KWh	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ガソリン	L	360	318	345	460	573	296	411	389	438	519	424	352	4,886
	軽油	L	386	342	363	402	450	516	498	531	882	929	227	448	5,974
	灯油	L	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	54	0	54

廃棄物排出量(1年分集計) 単位:t

一般廃棄物				建設副産物				
紙類	白上質紙	0.067	ペットボトル	0.012	木くず	4.7	石こうボード	0.62
	段ボール	0.12	発泡スチロール等	0.001	コンクリート	155	ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁	0.94
	その他の紙	0.018	プラスチックごみ	0.001	アスファルト・コンクリート	9	廃プラスチック	0.11
かん		0.02	その他可燃ごみ	0.007	金属くず	5.509	小計	175.879
小計				0.2444	最終廃棄量			1.53

# 代表者による評価と見直し

見直し 関連情報	項	目	チェック	評	価
	1	環境活動の記録	■	記録文書として作成しました。	
	2	環境目標及び目標達成状況	■	継続して取り組みます。	
	3	環境活動計画及び取組実施状況	■	継続して取り組みます。	
	4	環境関連法規要求一覧及び遵守状況	■	環境活動報告書に記載の通りです。	
	5	外部コミュニケーション・対応記録	■	本年は外部からの苦情はありませんでした。	
	6	取引先、業界、関係行政機関その他外部動向	■	特にありませんでした。	

代表者による 全体評価・見直し 指示	事業所	温室効果ガス 購入電力が前年度からは減少しているものの、目標に対しては9.1%の増加、太陽光発電売電量も2%減少し、全体的に電気の使用量が増加している。対して、ガソリンは前年度と比較して増加したが、目標は達成している。 灯油については、一回当たりの購入量がポリタンク1本分20Lであるため、目標数値を20Lに固定した。休憩室の暖房器具に欠かせないため、これ以上の削減は難しく、今後は現状維持を目標にしていく。 LPG使用量も順調に削減できている。 CO2排出量に換算して、全体で683kg/co2削減し、目標を達成した		
		水使用量 昨年度からは減少したが、目標は達成できなかった。今年度、トイレを一か所、節水型にリフォームしたので、次年度に期待したい		
		グリーン購入 引き続き、従来品との比較検討の上、エコ製品の購入を促進していきたい		
		一般廃棄物 排出量は増加しているが、きちんと分別し、紙類は就業継続支援B型事業所のリサイクル業者に、空き缶は鮎の稚魚を放流するためのボランティアに寄付するなど、地域の環境活動にも積極的な参加を心がけている。		
	現場	今年度は、大きな重機を使用する現場が多かったため、軽油の使用量が大幅に増加した。それに伴い、CO2排出量が現場全体で、8862kg-co2増加した。 建設副産物においては、総排出量が176tに対し、最終処分量は1.5tとそのほとんどが、再生利用された。 今後は、現場ごとに下請け業者に対しても、無駄なエネルギーの使用を減らしたり、混合廃棄物の分別などを周知徹底したい。		
	その他	富士市の実施するエコチャレンジに参加し、社員の家族もエコを心がけるようになり、7日間で74.9kg/co2のCO2を削減できた。		
		見直し項目	変更の 必要性	有の場合の指示事項等
	1	環境方針	無	
	2	環境目標	無	
	3	環境活動計画	無	
4	環境に関する組織	無		
5	その他のシステム要素	無		
6	その他(外部への対応)	有	名刺にエコアクション21のマーク	

平成26年6月30日

和田建設株式会社

代表取締役 鈴木 美奈子

# 環境関連法規

## 1.環境関連法規の遵守状況



当事業所に適用される環境関連法規の遵守事項を確認した結果、違反はありませんでした。

	主要な法律等	適用内容または規制基準値	遵守項目	遵守状況確認		
一般	環境基本法	事業者の責務	ばい煙、汚水、廃棄物等の処理その他の公害防止、自然環境の保全に必要な処置を講ずる。製品の使用又は廃棄による環境への負荷の低減に努める	○	2014/6/30	
	地球温暖化対策の推進に関する法律	事業者の責務	温室効果ガス排出の抑制に努める	○	2014/6/30	
	グリーン購入法	事業者の責務	環境物品の購入	○	2014/6/30	
事業	建築基準法	内装仕上げ・換気設備及び天井裏等の工事	石綿含有建材の使用禁止	○	2014/6/30	
			クロルビロリス添加建材の使用禁止	○		
			ホルムアルデヒドに関する規制	○		
	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物	処分事業所との委託契約	○	2014/6/30	
			①マニフェストの交付 ②回収・照合（発行後B2,D票90日E票180日以内） ③保管(5年間)	○		
			マニフェスト交付状況報告（毎年6月30日までに）	○		
			保管場所の掲示	○		
		野外焼却の禁止		○	2014/6/30	
	関連	建設工事に係る資材の再資源化に関する法律	建築物の解体	発注者への説明	○	2014/6/30
				都道府県知事への届け出（工事着手する日の7日前まで）	○	
分別解体等				○		
再資源化等の促進				○		
再生資源の使用				○		
騒音規制法	特定建設作業・適用指定地域	規制地域での規制の遵守	該当なし	2014/6/30		
振動規制法	特定建設作業・適用指定地域	規制地域での規制の遵守	該当なし	2014/6/30		
建設業法	建設業許可と更新	許可と5年ごとの更新	○	2014/6/30		
連	上下水道法	管工事業者許可と更新	許可と5年ごとの更新	○	2014/6/30	
		施工基準	遵守と届出	○	2014/6/30	
	道路法・河川法	施工基準	遵守と届出	○	2014/6/30	
ジャココ構内作業規定	公害防止・環境保全の義務	騒音・悪臭・振動・排水等による公害防止及び環境事故の防止	○	2014/6/30		

※毎年見直すものとする

## 2.違反・訴訟の有無

過去3年間、関係機関からの指摘、利害関係者からの訴訟もありませんでした。

作成者	承認者
	

## 緊急事態の想定結果及び対応策

### 1. 緊急時対策

#### 想定結果

倉庫内の有機溶剤(ペンキ)の漏出。盗難。

#### 定期訓練日

2013.9.1

総合防災訓練に伴い、有機溶剤の保管状況の確認。

#### 定期清掃

毎週月曜日を定期清掃日と定め、会社前の歩道と地下道の清掃を行っている。

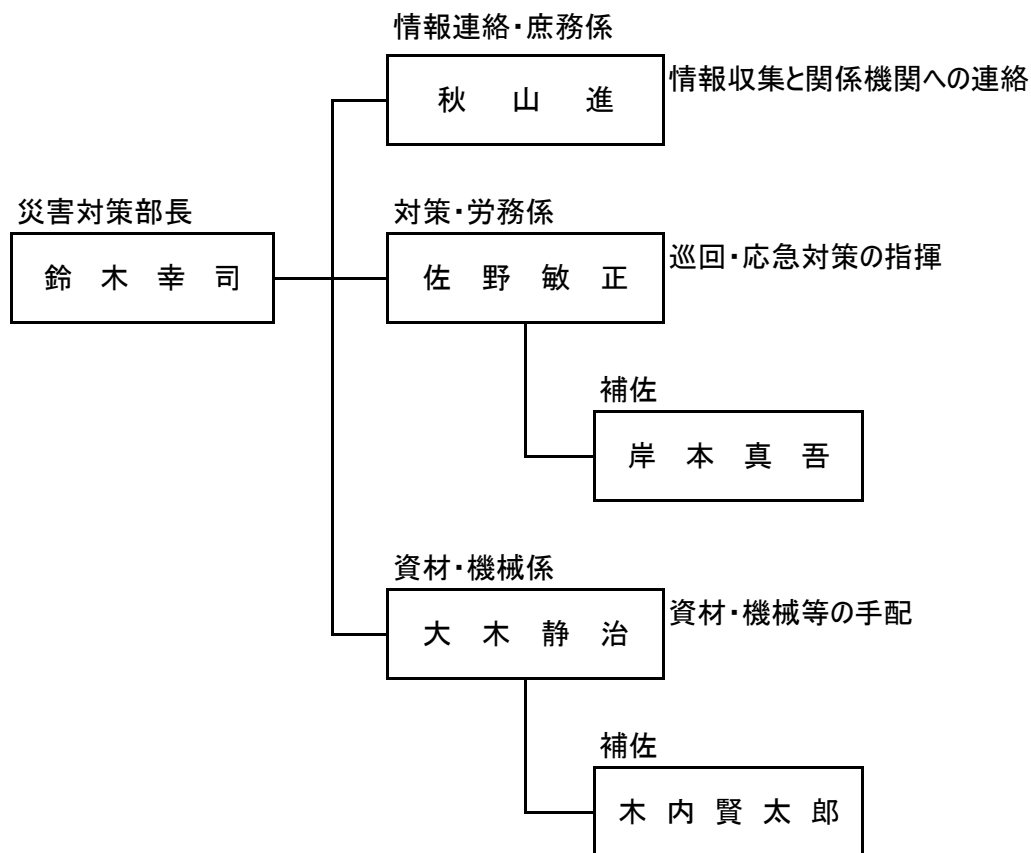
その際、有機溶剤(ペンキ)の漏出がないか確認し、あわせて施錠の確認をするようにした。

### 2. 緊急時の体制

#### 大雨、出水、強風、地震時の対応

大雨、出水、強風、地震などの異常気象で、災害発生の恐れのある場合は、下記の組織体制で必要に応じて現場内をパトロールし、警戒に当たる。

また、現場内において事故発生、またはその恐れのある場合も同様の組織で対応する。



## そのほかの取組



和田建設(株)太陽光発電所  
(当社事務所屋上)



平成25年7月5日  
安全大会において、  
下請け業者へ環境配慮事項  
を周知